

薬代の負担を見直してみませんか

ジェネリック医薬品は、新薬の特許が切れた後に、新薬と同じ有効成分で作られた薬です。ジェネリック医薬品の普及によって、一人一人の自己負担や市・健康保険組合の負担などの削減につながります。特徴やメリットを理解して、ジェネリック医薬品を使ってみませんか。

ジェネリック医薬品とは

新薬を開発した医薬品メーカーには、その新薬を独占的に販売できる特許期間(20～25年)があります。

す。

ジェネリック医薬品は、その期間が過ぎた後に、ほかの医薬品メーカーから販売される新薬と同じ有効成分、同等の効能・効果を持った薬です。

ジェネリック医薬品の開発では、医薬品メーカーがさまざまな試験を行っています。それによって、効き目や安全性が新薬と同等であると証明されたものだけが、厚生労働大臣によって、ジェネリック医薬品として承認されます。

どんなメリットがあるの

新薬の研究開発には、9～17年程度の長い歳月と、数百億円以上

の費用を要するといわれています。薬の価格には、その莫大な開発費用が反映されています。

これに比べてジェネリック医薬品は、すでに有効性や安全性が確認されていることから、開発費用が安く抑えられます。そのため、薬の価格は3～5割程度安くなっているのです。ジェネリック医薬品に切り替えることで自己負担を減らすことができます。

ただし、全ての病気・新薬に対してジェネリック医薬品があるわけではなく、切り替えできない場合もあります。

まずは医師または薬剤師に相談してください。

ジェネリック医薬品に関するお知らせ

市では、「ジェネリック医薬品に関するお知らせ」を送付しています。この通知は、現在処方を受けている薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合に、自己負担額がどのくらい安くなるかをお知らせするものです。

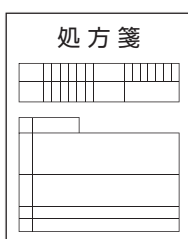
対象は40歳以上の国民健康保険加入者で、自己負担額が一定額以上軽減できると見込まれる人です。平成25年度は12月と3月に通知予定です。ジェネリック医薬品への切り替えの参考にしてください。※くわしくは保険年金課(☎20・1526)へ。

ジェネリック医薬品を希望するときは？

1 病院・診療所で医師に切り替えについて相談する



2 処方箋を確認する



処方箋を見て、ジェネリック医薬品に変更できるか確認してください。

3 薬局で薬剤師にジェネリック医薬品を希望する



4 薬の説明を受け、納得したらジェネリック医薬品を選ぶ

